

雁頭沢遺跡

(第8次発掘調査)

平成9年度県営圃場整備事業原村西部地区に先立つ緊急発掘調査報告書

1998.3

長野県原村教育委員会

表紙地図10,000分の1 ○印が雁頭沢遺跡

序

このたび平成9年度に発掘調査を実施した雁頭沢遺跡の報告書を刊行することとなりました。

発掘調査は「県営圃場整備事業原村西部地区」に先立って、諏訪地方事務所の委託と、国庫および県費から補助金交付を受けて原村教育委員会が実施したものであります。

調査の結果、小竪穴と僅かな土器と石器を発見しただけで、幸いに遺跡の中心部から外れていることがわかり、破壊された範囲は最小限にとどまっています。雁頭沢遺跡の発掘調査は8回を数えますが、このような地道な成果を積み重ねることにより、遺跡の性格を明確にできるものと思っています。

このたびの発掘にあたり、諏訪地方事務所土地改良課の方々のご配慮、長野県教育委員会のご指導、長野県埋蔵文化財センターをはじめ発掘にかかわる多くの皆様のご協力で深甚なる謝意を表する次第であります。

発掘現場では、長野県埋蔵文化財センター 調査研究員 櫻井秀雄氏の多大のご助力により、失われていく貴重な資料を記録に残すことができました。また、発掘調査報告書刊行にいたる過程において、お世話いただいた関係各位にたいし厚くお礼申し上げます。

平成10年3月

原村教育委員会
教育長 大 舘 宏

例 言

- 1 本報告は「平成9年度県営圃場整備事業原村西部地区」に先立って実施した、長野県諏訪郡原村室内に所在する雁頭沢遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、諏訪地方事務所の委託と、国庫および県費から発掘調査費補助金交付をうけた原村教育委員会が、平成9年8月6日から10月3日にかけて実施した。整理作業は、平成10年1月5日から3月24日まで行なった。
- 3 執筆は、平出一治・平林とし美・櫻井秀雄が話し合いのもとに行なった。
- 4 本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。
なお、本調査関係の資料には、53の原村遺跡番号を表記した。

発掘調査から報告書作成にわたって、原 明芳・武藤雄六の諸氏に御指導・御助言をいただいた。厚く御礼申し上げる次第である。

目 次

例 言	
目 次	
I 発掘調査に至る経過	5
II 発掘調査の経過	5
III 遺跡の位置と環境	7
IV グリッド設定・土層・調査方法	8
V 遺 構・遺 物	9
VI ま と め	10
引用参考文献	
発掘調査団名簿	
報告書抄録	

I 発掘調査に至る経過

平成5年度から実施されている「県営圃場整備事業原村西部地区」も5年目をむかえ、雁頭沢遺跡の保護については、平成8年11月11日に行なわれた「平成9年度県営圃場整備事業原村西部地区にかかわる埋蔵文化財保護協議」で協議され、遺跡は現状のまま保存していくのが最も望ましいことであるが、原村の農業の将来を考えると農地の整備は必要なことである上に、農業者から強い要望もあり「記録保存やむなき」との考えに落ち着き、平成9年度に緊急発掘調査を実施し、記録保存をはかる方向で同意をみることができた。出席者は長野県教育委員会文化財保護課、諏訪地方事務所土地改良課、原村役場農林課、原村教育委員会の4者である。

その後も協議を重ね調査日程等の確認をおこない、原村教育委員会は、国庫および県費から発掘調査補助金交付をうけ、また、諏訪地方事務所から緊急発掘調査の委託をうけ、平成9年8月6日から10月3日にわたって緊急発掘調査を実施した。

II 発掘調査の経過

平成9年8月6日 発掘準備をはじめ。

11日 重機による表土剥ぎを行う。

12日 表土剥ぎは終了したが、並行して調査を行っていた南平遺跡の調査進行の都合により、しばらくの間作業を中断する。

9月30日 作業を再開し、遺構の検出作業をはじめ。小竪穴89・90の2基を確認し精査を進める。小竪穴89から縄文時代中期の土器破片と石鏃が出土する。

10月3日 写真撮影を行い調査を終了する。



第1図 雁頭沢遺跡発掘調査区全景（西から）

表1 雁頭沢遺跡と付近の遺跡一覧

○は遺物発見 ◎は住居址発見

番号	遺跡名	旧石器	縄文				弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
			草	早	前中	後晩							
11	阿久		○	◎	◎	○					◎		昭和50～54年度発掘調査
12	前沢				◎						○		昭和55・61年度発掘調査
17	白ヶ原				○						○		昭和52年度発掘調査
18	前尾根西				○								
19	南平		○		◎						○		平成9年度発掘調査
20	前尾根				◎	◎					◎		昭和44・52～54・59・平成9年度発掘調査
21	上居沢尾根				◎	◎					○		平成4年度発掘調査
22	溜水		○		◎	○					◎		平成8年度発掘調査 消滅
25	真尾根				◎						◎		平成8年度発掘調査
26	家下				○								昭和59・平成9年度発掘調査、平成5年度立会い
27	園蔵沢				○						○	○	昭和62・平成9年度発掘調査
28	宮平											○	
42	居沢尾根		○		◎	○					◎		昭和50・51・52・56・平成6年度発掘調査
43	中阿久				○							○	昭和51年度発掘調査
44	原山				○							○	昭和50年一部破壊
45	広原日向				○	○							昭和58年度発掘調査
46	宿尻				◎	○					◎		平成5・6年度発掘調査
48	檢の木				○								昭和53年一部破壊
53	雁頭沢				◎						○		昭和54・57・63・平成4・5・8年度発掘調査
54	宮ノ下		○		○						○	○	昭和57・58年度発掘調査
55	中尾根			◎	◎						◎		平成7年度発掘調査
56	家前尾根		○	◎	◎	○					◎		昭和51年一部破壊、平成7年度発掘調査
57	久保地尾根				◎								昭和51年一部破壊、平成6・7・8年度発掘調査



第2図 雁頭沢遺跡の位置と付近の遺跡 (1:20,000)

III 遺跡の位置と環境

雁頭沢遺跡（原村遺跡番号53）は、長野県諏訪郡原村1178番地付近に位置する。原村役場の西方約1kmというように地理的条件に恵まれていることもあり、急激に宅地化が進んできている。このあたりは八ヶ岳西麓のほぼ中央に位置し、東西に細長く発達した大小様々の尾根がみられる。それらの尾根上には第2図および表1に示したように、縄文時代を中心とした数多い遺跡が埋蔵されている。その一つである本遺跡は、八ヶ岳から流下する大早川と阿久川という2本の小河川によって北と南を浸蝕された東西に細長い尾根上にある。調査地点は尾根の先端部にあたり、その標高は945m前後を測り、地目は山林で地味は良い。なお、原村における遺跡高度限界は標高1200m前後のラインである。本遺跡の存在は早くから知られていた。それは昭和40年頃の水田造成工事の折に、縄文時代中期中葉の藤内I式の一括資料が発見したことである。その一部を原村教育委員会で保管しているが良好な資料である。

原村教育委員会では、昭和54年と57年度に村道改良工事に先立つ緊急発掘調査を2次にわたり実施したが、便宜的に昭和54年度を第1次発掘調査、57年度を第2次発掘調査と呼んでいる。第1次調査では縄文時代中期中葉の藤内式の住居跡1軒と小竪穴4基、第2次調査では近世の汐土1と時代不詳の配石1を発見している。昭和63年度に住宅団地造成に先立つ第3次緊急発掘調査を実施し、縄文時代中期の住居跡6軒と小竪穴82基を発見し、縄文時代中期初頭から中葉にかけての集落遺跡であることがわかってきている。その後も開発は進み平成4年度に住宅建設に先立つ第4次緊急発掘調査を、5年度に住宅建設に先立つ第5次、宅地造成に先立つ第6次、工場建設に先立つ第7次緊急発掘調査を実施している。しかしいずれも調査範囲は狭く、また遺跡の中心部を外れていたこともあり、第6次調査で小竪穴2基を発見しただけである。

以上の調査結果からみると、雁頭沢遺跡は極めて良好な縄文時代中期の集落跡になるものと思われるが、南東部分は墓地によって一部破壊されているようである。

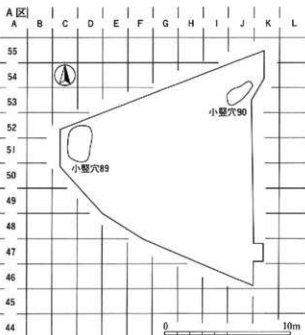


第3図 雁頭沢遺跡発掘調査区域図・地形図(1:2,500)

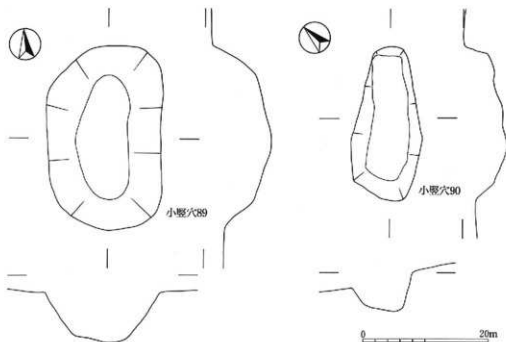
IV グリッド設定・土層・調査方法

発掘調査の対象は第3図に示したように、平成9年度東営圃場整備事業原村西部地区にかかる遺跡の全域におよんでいる。

発掘に先だち第4図のとうり、東西南北に軸を合わせた2×2mのグリッドを設定した。東西方向は西からA～Kのアルファベットを、南北方向には算用数字をふったが、調査地点のほぼ中心を50ラインとし、そのラインを基準に南方は49・48・47というように南にいくにしたがい小さくなるように、北方は51・52・53と大きくなるように振分け、それぞれのグリッドを呼ぶこととした。



第4図 雁頭沢遺跡遺構配置図 (1/300)



第5図 雁頭沢遺跡小堅穴89・90実測図 (1:60)

層序は、山林であったこともあり比較的安定していた。第Ⅰ層は茶褐色土で山林の表土層でバサバサしているが、第Ⅱ層は黒褐色土層でしまっている。第Ⅲ層は茶褐色土でやや粘性でしまっている。第Ⅳ層は黄褐色土でソフトロームへ漸移する。

調査は、重機で表土剥ぎを行い、その後、遺構の検出作業を進め、小竪穴2基を発見調査している。発掘調査は原則としてローム層の上面まで層別別に行い、遺物は遺構別に取り上げた。ちなみに調査面積は175㎡である。

V 遺構・遺物

調査の結果、縄文時代中期の小竪穴89・90の2基を発見調査し、小竪穴89から土器破片と石器を僅かに発見しただけである。若干の説明を加えてみたい。

(1) 小竪穴 89 (第5図、第6図)

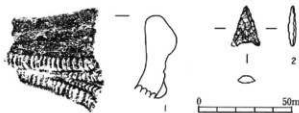
尾根の先端部で、C-51・C-52・D-51・D-52の4グリッドにまたがっている。埋土は黒色土の自然埋没と思われる。平面形は長径293cm、短径185cmの不正楕円形で、壁の立上りは比較的なだらかである。深さは深い所で95cmを計る。

遺物は少ないが土器と石器がある。土器は、縄文時代中期中葉の新道式の深鉢の口縁部破片(第6図1)である。石器は、黒曜石製の石鏃1点(第6図2)、硬砂岩製の打製石斧の基部小破片、黒曜石の剥片2点である。発見遺物が少ないこともあり性格は不明である。

(2) 小竪穴 90 (第5図)

やはり尾根の先端部であるが緩やかな北傾斜で、I-53・J-53・J-54の3グリッドにまたがっている。この辺りの地山には数多い礫が見られ、やや不明瞭な点もあるが、埋土は比較的サラサラとした黄褐色土で、自然埋没と思われる。平面形は長径244cm、短径113cmの不正の長楕円形である。壁の立ち上がりは比較的良いが底面は地山の礫の影響か凹凸が著しい。深さは深い所で69cmを計る。

遺物の発見は皆無で、帰属時期および性格などは不明である。



第6図 雁頭沢遺跡小竪穴89出土土器拓影・石器実測図(1/2)

VI ま と め

本調査は限られた狭い範囲であり、縄文時代中期の小竪穴2基、それに伴う僅かな土器破片と石器を発見しただけである。

遺跡は、雁頭沢遺跡が立地する尾根の先端部にあたり、今までの遺跡概念ではここも雁頭沢遺跡となろうが、小竪穴のあり方および伴出土器からみると、平成9年度に緊急発掘調査を実施した隣接する南平遺跡である可能性が大きい。しかし、小竪穴の性格が不明な上に伴出土器は少なく、また、雁頭沢遺跡の全体像を明確にできない現在の、小竪穴が雁頭沢遺跡であるのか、それとも南平遺跡であるのか明確にすることはできない。しかし、調査にたずさわってきた中で、ここまでする南平遺跡の範囲と考えたい気持ちの方が強い。雁頭沢遺跡、南平遺跡のいずれにしろ、遺跡の外縁部のあり方の一端を窺うことができたといえよう。

引用参考文献

- 1974.07 諏訪清陵高等学校地歴部考古班「原村の考古学的調査 上」(「土」8)
- 1980.03 長野県教育委員会「昭和54年度 ハヶ岳西南麓遺跡群分布調査報告書」
- 1985.07 原村役場「原村誌 上巻」
- 1989.03 原村教育委員会「雁頭沢遺跡(第3次) 住宅団地造成に伴う緊急発掘調査概報」
- 1993.03 原村教育委員会「雁頭沢遺跡(第4次)・下原山茂佐久保(第3次)調査 平成4年度住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書」
- 1994.03 原村教育委員会「雁頭沢遺跡(第5次) 住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書」
- 1994.03 原村教育委員会「雁頭沢遺跡(第6次・第7次) 宅地造成及び工場建設に伴う緊急発掘調査報告書」
- 1998.03 原村教育委員会「南平遺跡発掘調査概報 原村の縄文遺跡がいまよみがえる」

雁頭沢遺跡発掘調査団名簿

団 長	大館 宏 (原村教育委員会教育長)
調査担当者	櫻井 秀雄
調 査 員	平出 一治 平林とし美
調査参加者	発掘作業 西沢 寛人 小松 弘 日達今朝江(順不同) 整理作業 朝日 治郎
事 務 局	原村教育委員会 中村 正英(教育次長) 津金 一臣(庶務係長) 伊藤 佳江 平出 一治(文化財係長) 平林とし美 石川 美樹 櫻井 秀雄(県派遣主事)

報告書抄録

ふりがな	がつとぎわいせき							
書名	雁頭沢遺跡（第8次発掘調査）							
副書名	平成9年度県営圃場整備事業原村西部地区に先立つ緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	原村の埋蔵文化財							
シリーズ番号	47							
編著者名	平出一治 平林とし美 櫻井秀雄							
編集機関	原村教育委員会							
所在地	〒391-0192 長野県諏訪郡原村12080 TEL. 0266-79-2111							
発行年月日	西暦 1998年03月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
雁頭沢	長野県諏訪郡 原村室内	3637	53	35度 57分 37秒	138度 12分 19秒	19970806 { 19971003	175	平成9年度県営圃 場整備事業原村西 部地区
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
雁頭沢	集落跡	縄文時代 中期	小竪穴 2基		土器破片・打製石片破 損品・石鏃		雁頭沢遺跡と考え 調査したが、発見 した土器破片から みると、隣接する 南平遺跡なのかも しれない。いずれ にしても、遺跡の 外縁部の一端を窺 うことができたとい えよう。	

原村の埋蔵文化財47

雁頭沢遺跡 (第8次発掘調査)

平成9年度県営園場整備事業原村西部地区に先立つ緊急発掘調査報告書

発行日 平成10年3月

発行 原村教育委員会
〒391-0192 長野県諏訪郡原村

印刷所 もえぎ企画書籍
〒394-0043 岡谷市御倉町2-21
TEL 0266-22-4892

